

石狩市営プール整備基本計画
【資料編】

令和8年3月
石 狩 市

目 次

1章 整備計画の検討資料	1
1-1 機能・規模の検討	1
2-2 設備計画の検討	17
2-3 構造計画の検討	18
2-4 石狩市 環境省 脱炭素先行地域事業.....	19
第2章 意見交換等の記録	20

1章 整備計画の検討資料

1-1 機能・規模の検討

(1)メインプールの規模検討

①最大利用者数に基づく規模検討

石狩市民プールの最大瞬間利用者数は62人(下表)、石狩市 B&G 海洋センタープールの瞬間最大利用者数は学校水泳授業での88人であった。より大きい後者を新たな市営プールの最大瞬間利用者数と想定する。

都市公園技術標準解説書(令和7年版、日本公園緑地協会)によると、「一人あたり専有面積はプールの種類により違うが一般には2.0~3.6㎡」「3.0㎡内外を標準値としている」とある。これを参考に、メインプールの一人あたり面積を3.0㎡と設定すると必要面積は以下のとおりとなる。

$$3.0 \text{ m}^2 \times 88 \text{ 人} = 264 \text{ m}^2 > 25\text{m} \times 10\text{m} (2\text{m} \times 5\text{レーン}) = 250 \text{ m}^2$$

つまり、6レーン以上が必要となる。

また、

$25\text{m} \times 12\text{m} (2\text{m} \times 6 \text{レーン}) = 300 \text{ m}^2 = 3.0 \text{ m}^2 \times 100 \text{ 人}$ であることから、新たなプールの最大利用者可能数を100名と想定する。

図表 1 石狩市民プールの各観測時点別プール室滞在者数

時間帯	11:00	13:00	15:00	17:00	19:00	21:00
年間総数(人)	5,343	3,063	2,727	7,147	2,349	888
開館日平均(人)	15.9	9.1	8.1	21.3	7.0	2.6
最大値(人)	62	24	40	55	19	21

(2023年度管理日誌データ集計)

②レーン運用想定に基づく規模検討

現在の石狩市民プールと石狩市 B&G 海洋センタープールで行われている活動が、新たな市営プールで実施可能であるか検討する。

7月8月の水泳教室などの専用利用が最も多く重なる日におけるレーン運用案は次頁図のようになる。

6レーン以上の場合は、専用利用にレーンが不足することは無く、常に複数のレーンが水泳用に一般公開される余裕がある。

5レーンの場合は、専用利用にレーン不足は生じないが、水泳用に一般公開されるレーンが1レーンのみとなる時間帯が生じる。

以上から、6レーン以上確保することが望ましい。

図表 2 新たな市営プールのレーン運用検討



【メインプール7レーンの場合】 ⇒ 専用利用○、一般公開○(複数レーン確保)



【メインプール6レーンの場合】 ⇒ 専用利用○、一般公開○(複数レーン確保)

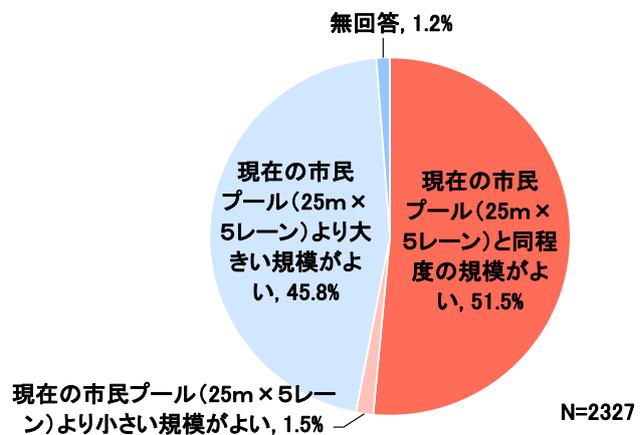


【メインプール5レーンの場合】 ⇒ 専用利用○
一般公開△(1レーンのみの時間帯あり)



③住民ニーズに基づく規模検討

市民を対象にしたアンケート調査結果では、整備するプールの規模について、「現在の市民プールと同程度の規模がよい」が最も多く、51.5%、「現在の市民プールより大きい規模がよい」が45.8%となっている。また、利用団体の個別ヒアリングにおいても、大会等を開催する場合、6レーンあれば満足に開催ができるとの意見があることから、6レーンを基本とする。



図表 3 整備するプールの規模(市民アンケート結果)

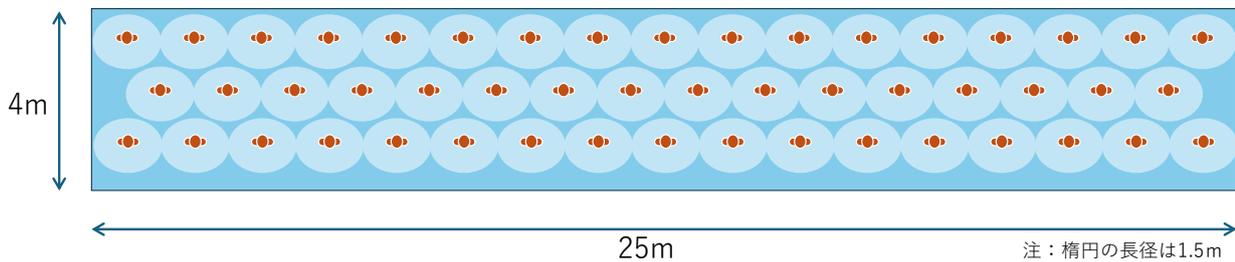
(2) プールサイド幅の検討

「プールの安全標準指針(平成 19 年、文部科学省・国土交通省)」によると、「プールサイド及び通路等は、プール本体の大きさ、利用者等を考慮して、十分な広さを有することが必要である」とあり、数値的な基準は示されていないが、通路としてのすれ違いや救急活動スペース確保のため最低でも2m以上を確保することが必要と考えられる。

また、利用団体ヒアリングの結果、学校授業での準備運動や待機場所として必要であること、市民水泳大会での選手同士の応援や事務局席の場所が必要であることが指摘されている。

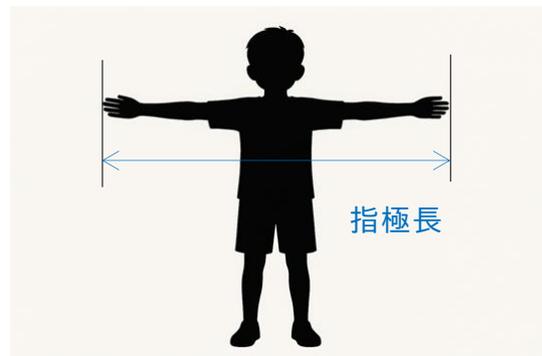
準備運動で長辺のプールサイドに約 50 人が3列横隊で並ぶ場合、プールサイド幅は約4mが必要となる。

図表 4 プールサイドでの準備運動利用イメージ(3列横隊・50人)



図表 5 児童身体サイズ

満年齢・性別	指極長 (平均 mm)
10 歳・男子	1,340
10 歳・女子	1,333
12 歳・男子	1,472
12 歳・女子	1,476



資料: 社団法人 人間生活工学研究センター「日本人の人体計測データ」

一般社団法人 日本公園施設業協会「遊具の安全に関する基準 2024」

(3) こども用プール・幼児用プール規模の検討

① 最大利用者数に基づく規模検討

都市公園技術標準解説書(令和7年版、日本公園緑地協会)によると、「一人あたり専有面積はプールの種類により違うが一般には 2.0～3.6 m²」「3.0 m²内外を標準値としている」とされている。

これを参考に、大人とこどもの対格差を考慮して、こども一人あたり 1.5 m²とする。

最大こども利用者数を 53 人(2025 年度石狩市民プール幼稚園事業の最大利用者数、ミナクル幼稚園年中組参加人数)として、1.5 m²×53 = 79.5 m²≒約 80 m²をこども用プールの整備面積とする。

② 事例に基づく規模検討

屋内公営プールにおけるこども用プールの整備事例を見ると、滑り台付きのプールは 100 m²前後、滑り台の無いプールでは 20～100 m²程度となっている。滑り台については、札幌市東温水プールレベルのウォータースライダーを想定する。

幼児用プールについては、こども用プールの付属設備として 3 歳以下の幼児も保護者と市民プールを利用できるように設置するものとし、規模については他自治体の事例を参考に、こども用プールと合算した面積として 110 m²程度になるよう、20 m²として設定する。

図表 6 屋内公営プールにおける「滑り台つき・こども用プール」の事例

No.	施設名称	所在地	広さ(概数)	水深
1	温水プール「ア・エール」	北海道深川市	93m ²	0～0.55m
2	東温水プール	北海道札幌市	120m ²	0.7～0.8m
3	白糠町温水プール (サンアリーナしらぬか)	北海道白糠町	160m ²	0.5m
4	鱒ヶ沢町スポーツセンター 室内温水プール	青森県鱒ヶ沢町	150m ²	0.75～ 0.85m
5	エコトピア寿	新潟県長岡市	117m ²	不明

図表 7 屋内公営プールにおける「滑り台無し・こども用プール」の事例

No.	施設名称	所在地	広さ	水深
1	木古内町民プール	北海道木古内町	20m ²	0.5m
2	佐賀市健康運動センター	佐賀県佐賀市	35m ²	0.5m
3	牡鹿交流センターほっとまる	宮城県石巻市	20m ²	0.3m
4	富山市民プール	富山県富山市	35m ²	0.3m
5	あずまウォーターランド	群馬県伊勢崎市	18m ²	0.3m
6	新居浜市山根公園屋内プール	愛媛県新居浜市	71m ²	0.5m
7	萩中公園プール	東京都大田区	22m ²	0～0.4m
8	柳泉園グランドパーク	東京都東久留米市	117m ²	0.5m

屋内公営プールにおける「滑り台つきこども用プール」の事例

1. 温水プール「ア・エール」

施設名称	温水プール「ア・エール」
所在地	深川市1条9番25号
開業年月日	2000年
延床面積	4,158.62m ²
主要機能	25mプール（7コース）、流水プール、子供・幼児プール（水深0m～0.55m）、滑り台、ウォーターライダー、ジャクジー、探暖室、トレーニング室、スタジオ
子ども用プール面積	93.3m ²

■子ども用プール



出典：深川市HP

2. 東温水プール

施設名称	東温水プール
所在地	札幌市東区北16条東16丁目2-2
開業年月日	1996年12月
延床面積	不明
主要機能	25mプール、幼児用プール（水深0.7m～0.8m）、ウォーターライダー、探暖室、観覧コーナー
子ども用プール面積	120m ²

■子ども用プール



■平面図



出典：東温水プールHP

屋内公営プールにおける「滑り台つきこども用プール」の事例

3.白糠町温水プール（サンアリーナしらぬか）

施設名称	白糠町温水プール（サンアリーナしらぬか）
所在地	白糠町東2条北3丁目1番地2・2番地1
開業年月日	1990年3月（2021年3月リニューアル）
延床面積	1833.4m ²
主要機能	25mプール（6コース）、滑り台専用プール・幼児用プール（水深0.5m）、採暖室、温浴施設、休憩スペース
子ども用プール面積	約160m ²

■子ども用プール



■平面図



出典：サンアリーナしらぬかHP

4.鱒ヶ沢町スポーツセンター室内温水プール

施設名称	鱒ヶ沢町スポーツセンター室内温水プール
所在地	青森県西津軽郡鱒ヶ沢町大字舞戸町字小夜51-1
開業年月日	不明
延床面積	不明
主要機能	25mプール（8コース）、幼児プール（水深0.75m～0.85m）、ウォータースライダー、採暖室
子ども用プール面積	150m ²

■子ども用プール



■プール平面図（レーン仕様図）



出典：鱒ヶ沢町HP

5. エコトピア寿

施設名称	エコトピア寿
所在地	新潟県長岡市寿3丁目6番30号
開業年月日	不明
延床面積	不明
主要機能	遊泳プール（20m×2コース）、幼児プール、ジャグジー、滑り台
子ども用プール面積	約117m ²

■子ども用プール



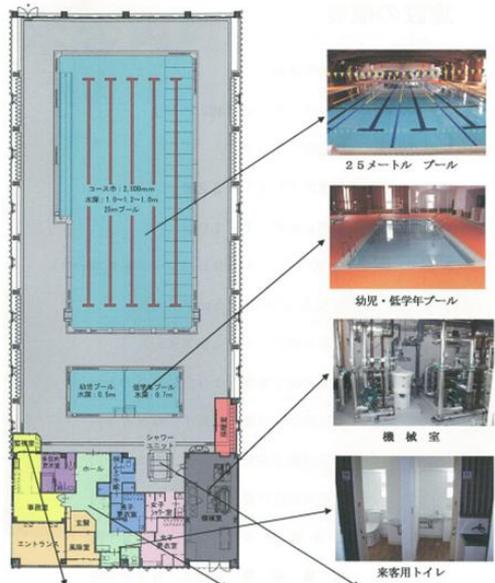
出典：エコトピア寿HP

屋内公営プールにおける「滑り台無し こども用プール」の事例

1.木古内町民プール（ふるさとの森プール）

施設名称	木古内町民プール（ふるさとの森プール）
所在地	上磯郡木古内町字木古内179-1
開業年月日	2014年7月
施設面積	999.63m ²
主要機能	25mプール（5コース）、低学年プール（水深0.7m） 幼児用プール（水深0.5m）、採暖室
子ども用プール面積	20m ²

■写真及び平面図
フロア案内



出典：木古内町教育委員会HP

2.佐賀市健康運動センター

施設名称	佐賀市健康運動センター
所在地	佐賀県佐賀市高木瀬町大字長瀬2553
開業年月日	2004年5月
延床面積	4,769m ²
主要機能	25mプール（7コース）、こどもプール（水深0.5m）、ジャグジー、流水プール、スタジオ、トレーニングルーム、多目的室
子ども用プール面積	約35m ²

■子ども用プール



■平面図



3. 牡鹿交流センターほっとまる

施設名称	牡鹿交流センターほっとまる
所在地	宮城県石巻市鮎川浜清崎山7
開業年月日	2001年5月
敷地面積	11,404m ²
主要機能	25mプール（4コース）、幼児用プール（水深0.3m）、ジャクジー、採暖室、トレーニング室、休憩室、図書館
子ども用プール面積	20m ²

■子ども用プール



■平面図



出典：石巻市HP

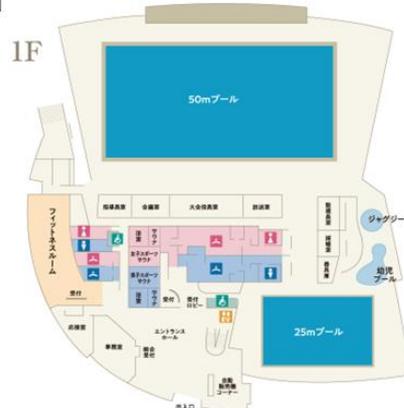
4. 富山市民プール

施設名称	富山市民プール
所在地	富山県富山市荒川4-1-70
開業年月日	1999年5月
延床面積	不明
主要機能	50mプール（10コース）、25mプール（7コース）、幼児プール（水深0.3m）、スライダー、ジャクジー、サウナ、フィットネスルーム
子ども用プール面積	35m ²

■子ども用プール



■平面図



出典：富山市民プールHP

屋内公営プールにおける「滑り台無し こども用プール」の事例

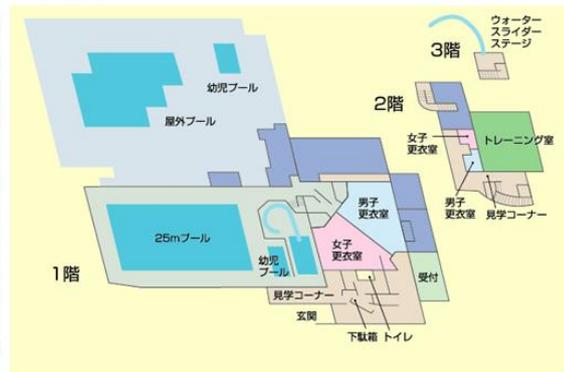
5.あずまウォーターランド

施設名称	あずまウォーターランド
所在地	群馬県伊勢崎市田部井3-340
開業年月日	1998年5月
延床面積	不明
主要機能	25mプール（6コース）、幼児プール（水深0.3m）、スライダー、屋外プール、トレーニング室
子ども用プール面積	約18m ²

■子ども用プール



■平面図



出典：あずまウォーターランドHP

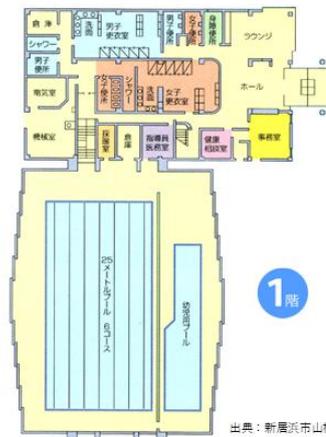
6.新居浜市山根公園屋内プール

施設名称	新居浜市山根公園屋内プール
所在地	愛媛県新居浜市角野新田町3-14-2
開業年月日	1988年
延床面積	不明
主要機能	25mプール（6コース）、幼児用プール（水深0.5m）、採暖室、健康相談室
子ども用プール面積	70.5m ²

■子ども用プール



■平面図



出典：新居浜市山根公園屋内プールHP

屋内公営プールにおける「滑り台無し こども用プール」の事例

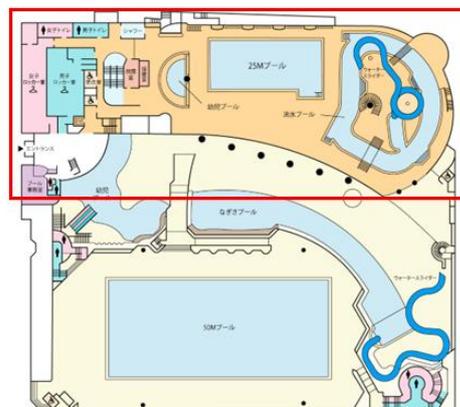
7. 萩中公園プール

施設名称	萩中公園プール
所在地	東京都大田区萩中3-26-46
開業年月日	不明
延床面積	不明
主要機能	25mプール（5コース）、流れるプール、ウォータースライダー、幼児用プール（水深0～0.4m）、屋外プール（50mプール、なぎさプール、幼児プール）
子ども用プール面積	22m ²

■子ども用プール



■平面図



出典：萩中公園プールHP

8. 柳泉園グランドパーク

施設名称	柳泉園グランドパーク
所在地	東京都東久留米市下里4-3-10
開業年月日	不明
延床面積	不明
主要機能	25mプール（6コース）、幼児用プール（水深0.5m）、歩行用プール、トレーニング室、温泉施設、多目的室、食堂
子ども用プール面積	約117m ²

■子ども用プール



■平面図



出典：柳泉園組合HP

(4) 更衣室規模の検討

新たな市営プールの最大瞬間利用者数を 100 人と想定することから、男子更衣室・女子更衣室は、男女それぞれプール利用者 50 人とトレーニング室利用者分 10 人の面積を確保する。面積は「都市公園技術標準解説書(令和7年版、日本公園緑地協会)」において、更衣室は 1.0 m²/人となっており、これに準拠して規模を設定する。ただし、ロッカーは男女比が偏る可能性を考慮して男女それぞれ 100 人分を確保する。

また、洗面台(4 台想定)、シャワー室(5 ブース想定)、トイレ室(男:個室 1、小便器 2、女:個室 3 想定)について必要面積を設定の上、更衣室を約 90 m²と設定した。

多目的更衣室は、高齢者・障がい者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準等を踏まえて、必要面積を設定し、多目的更衣室は約 50 m²と設定した。

図表 8 更衣室の規模設定

【男子・女子更衣室】

	単位面積	数量	面積
ロッカー・脱衣室			60.0 m ²
プール利用人数分	1.0 m ² /人	50 人	50.0 m ²
トレーニングルーム利用人数分	1.0 m ² /人	10 人	10.0 m ²
洗面台			6.0 m ²
洗面台スペース	1.5 m ² /台	4 台	6.0 m ²
シャワー室			15.0 m ²
シャワーブース	1.5 m ² /ブース	5 ブース	7.5 m ²
通路(シャワーブース相当)			7.5 m ²
トイレ室			10.0 m ²
トイレ (男:個室1、小便器2、女:個室3)	10 m ²	1 式	10.0 m ²
合計			91.0 m ²
			→ 90.0 m²

【多目的更衣室】

	単位面積	数量	面積
更衣室			18.0 m ²
更衣室	9.0 m ² /室	2 室	18.0 m ²
シャワー室			9.0 m ²
シャワーブース	9.0 m ² /室	1 室	9.0 m ²
トイレ室			9.0 m ²
トイレブース	9.0 m ² /室	1 室	9.0 m ²
通路			10.0 m ²
通路	10.0 m ² /室	1 室	10.0 m ²
合計			46.0 m ²
			→ 50.0 m²

(5) トレーニング室規模の検討

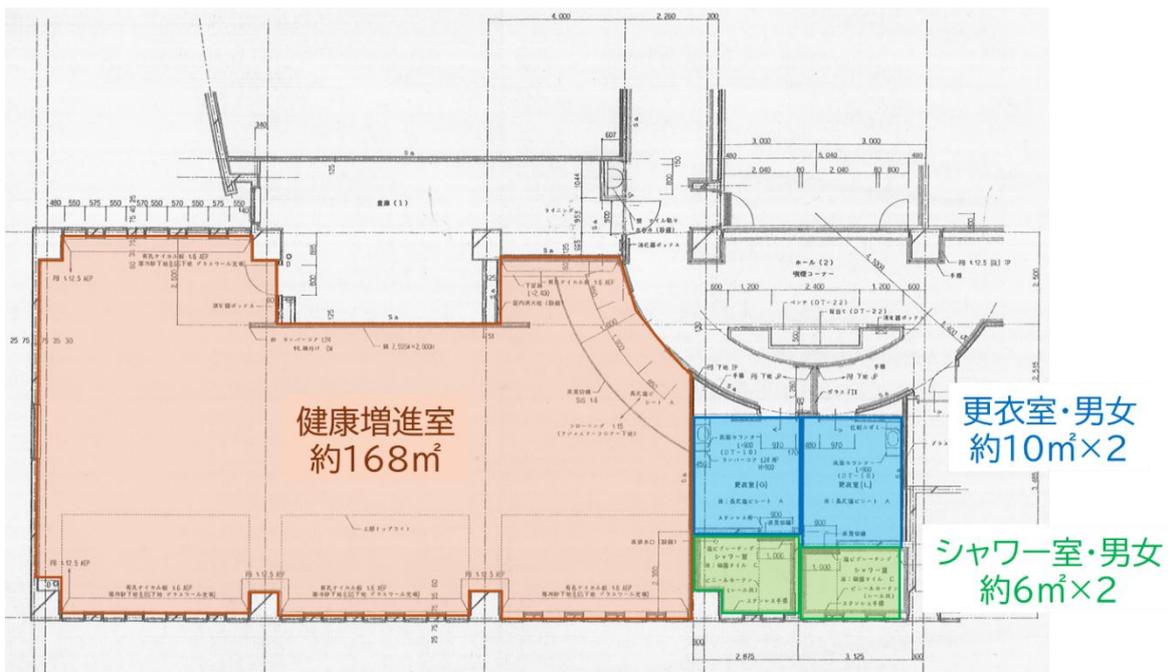
新たな市営プールに設置するトレーニング室は、市民の健康増進と体力づくりをプールと一体的に推進し、市民の学び・健康増進の場として位置付け、現在、石狩市総合保健福祉センターりんくるに設置されている「健康増進室」の代替となることも想定する。

また、プール利用とトレーニング利用を同一施設内で一体的に運用することで、水泳教室に加えてトレーニング室を活用した様々なメニュー拡充を図ることができる。水泳運動と合わせて器具等を用いたトレーニングやエクササイズ等の組み合わせメニューなども検討することができ、より効果的かつ魅力的な健康・体力づくりメニューの提供が可能となり、利便性の向上に加え、利用促進や集客効果にもつながることが期待される。

図表 9 水泳教室+トレーニングメニュー例

ダンベル体操 水泳運動	ストレッチ教室 水中歩行	ストレッチ教室 水泳運動	バランス エクササイズ 水中歩行
----------------	-----------------	-----------------	------------------------

図表 10 石狩市総合保健福祉センターりんくる3階「健康増進室」



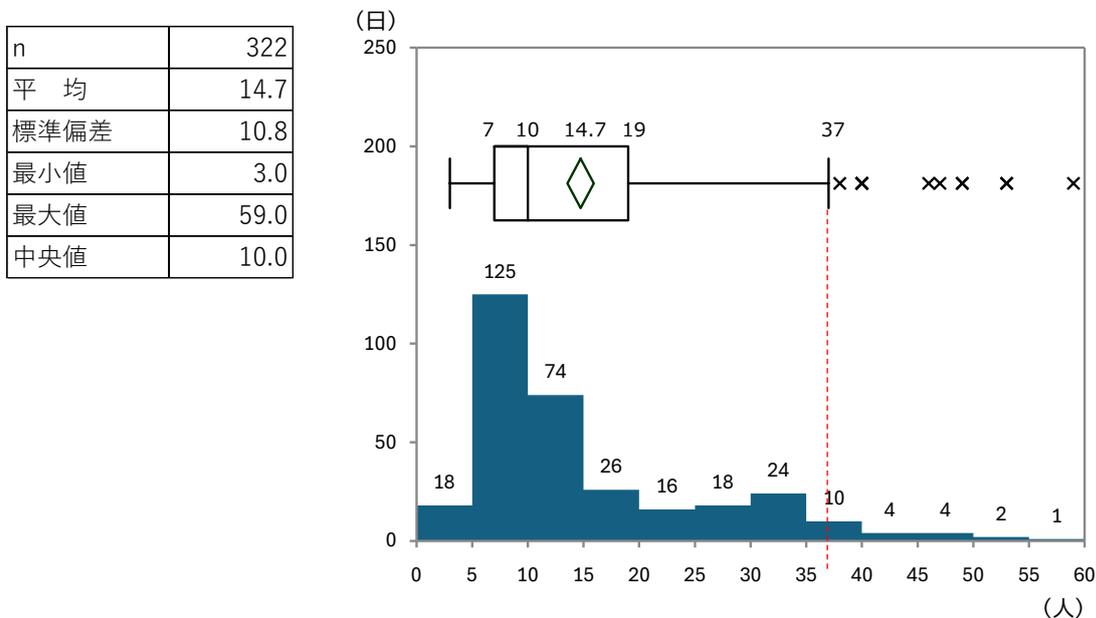
(6) 駐車台数の検討

新たな市営プールの最大瞬間利用者数を 100 人と想定しているが、これは学校プール授業が大部分を占める利用者数である。学校プール授業での移動は団体バスが基本であることから、駐車台数(乗用車)の検討においては、現在の石狩市民プールの利用者数に基づき算出する。

令和6年度(2024年度)の石狩市民プールの開館日ごとの時間帯別最大利用人数を抽出し、統計的分析を行うと、下図表に示すとおり、四分位範囲に基づく基準では、上側外れ値の境界が 37 となった。

このことから、プールの最大利用者数を 37 人と設定し、トレーニング室・多目的室の利用者を加算し、利用者数に相当する駐車台数と駐車場台数を算出した。

図表 11 令和6年度(2024年度)における日別の最大利用人数の分布



図表 12 駐車台数の設定

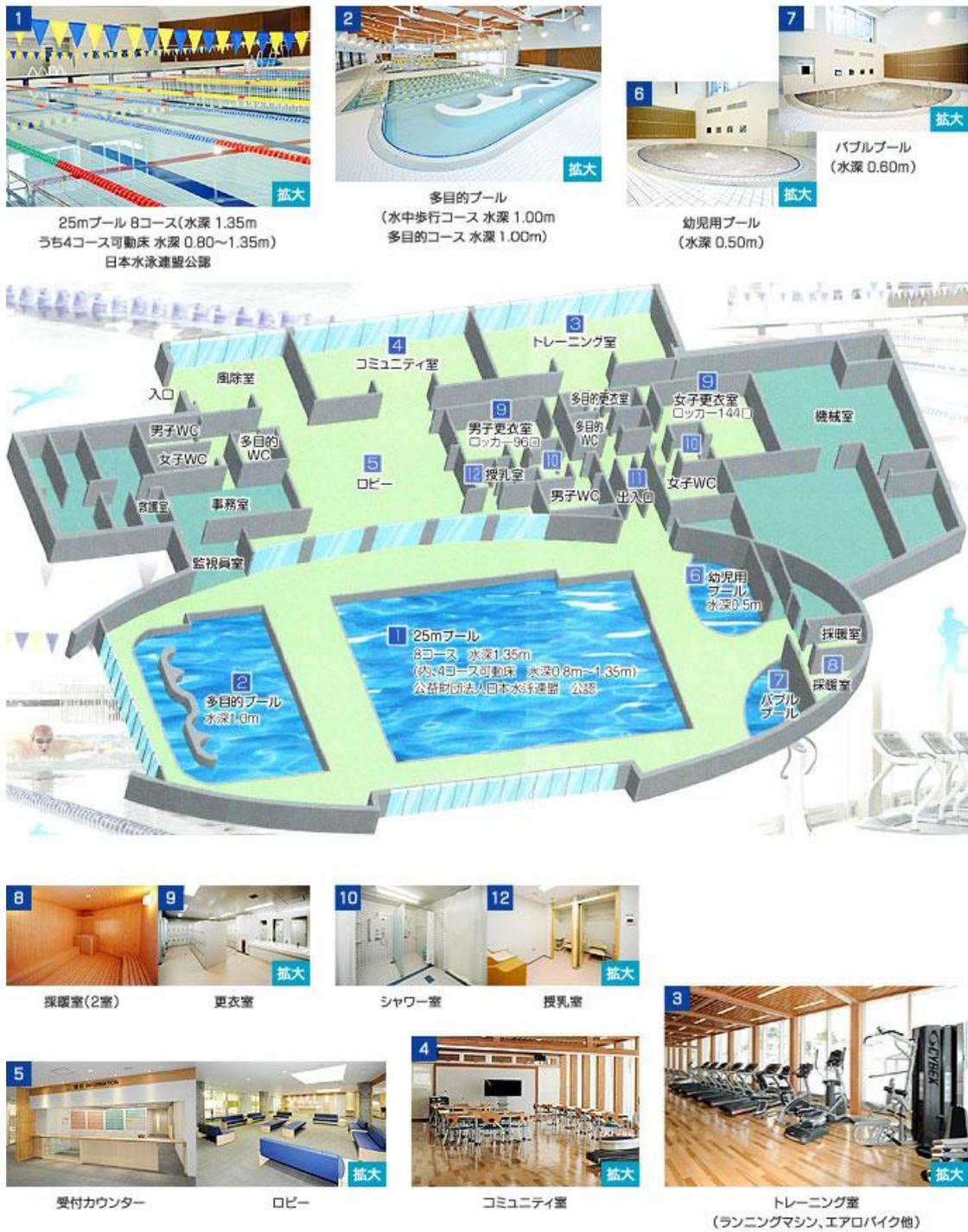
① プールの最大利用者数		37人
② トレーニング室の利用者数	想定	10人
③ 多目的室の利用者数	想定	10人
④ 利用者数 計	①+②+③	57人
⑤ 自動車換算原単位 (台/人)		80%
⑥ 利用者の最大駐車台数	④×⑤	46台
⑦ 駐車場台数の設定 (端数切り上げ)		50台

(7)機能・規模のまとめ

図表 13 面積表

機能	室名	計画施設		既存施設			事例			
		面積計	備考	石狩市民プール 室名	面積計	石狩市B&G海洋センタープール 室名	面積計	北見市民プール 室名	面積計	
プール室・ 関連機能	プール室	プール 計	1,065.0	6レーン+幼児用+子ども用	プール 計	594.2	プール	863.0	プール室 計	1,423.7
		メインプール	355.0		プール	579.3			25mプール(8レーン)	445.0
		こども用プール	100.0		プールWC(女)(男)	10.9			多目的プール	198.0
		幼児用プール	25.0		身障者WC(B)	4.0			幼児用プール	35.0
		スロープ等	35.0						ジャグジープール	30.0
		プールサイド	550.0						その他	715.7
		シャワー	20.0		採暖室	13.6			採暖室 計	35.3
	採暖室	25.0						監視室2	9.4	
	小計	1,110.0			607.8		863.0		1,468.4	
	関連機能	更衣室 (男性)	90.0		ロッカー室(男)	43.9	男子更衣室 計	62.6	男子更衣室 計	81.1
		更衣室 (女性)	90.0		ロッカー室(女)	65.6	女子更衣室 計	57.3	女子更衣室 計	95.9
		更衣室 (多目的)	50.0						多目的更衣室 計	27.5
	小計	230.0			109.5		119.9		268.6	
管理設備	受付/事務室	事務室	60.0		事務室	21.5		事務室	55.4	
		指導室	-	事務室に含む	指導員控室	15.3		指導室	9.6	
		救護室	-	事務室に含む				救護室	10.1	
								会議室	33.1	
	男子休憩・更衣室	10.0		従業員休憩室	16.3		男子休憩・更衣室	16.0		
	女子休憩・更衣室	10.0		従業員休憩室	19.0		女子休憩・更衣室	16.1		
	監視室	20.0					監視室	22.7		
倉庫・物品庫	90.0		倉庫・物品庫 計	84.1		倉庫・物品庫 計	80.3			
小計	190.0			156.2		0.0		243.2		
一般開放 共用部	エントランスホール	ホール	70.0		ホール等	173.5		ロビー 1	48.2	
		飲食スペース	75.0							
		キッズスペース	40.0							
	観覧スペース・観覧席	110.0						ロビー 2	52.8	
	トイレ	トイレ (男)	20.0		トイレ (男) 計	16.4		男子トイレ1	15.8	
		トイレ (女)	20.0		トイレ (女) 計	15.9		女性トイレ1	15.7	
		トイレ (多目的)	10.0		身障者WC(A)	5.2		多目的トイレ1	10.6	
授乳室	10.0						授乳室	11.1		
小計	365.0			210.9		0.0		154.2		
付帯機能 (貸付)	付帯機能 (貸付)	多目的室	100.0		多目的ホールAB	223.6		コミュニティホール 計	106.0	
		トレーニングルーム	200.0	現健康増進室 (168m) を参考	多目的ホールC	95.1		トレーニングルーム 計	109.4	
					バンドリー	16.1				
				ギャラリー	25.1					
小計	300.0			359.9		0.0		215.4		
その他	機械室等	機械室	270.0		機械室 計	96.1		機械室 計	285.8	
								電気室	39.3	
	廊下等	廊下等	135.0		廊下等	211.8		消火ポンプ室	9.8	
小計	405.0			307.9		0.0	ハレット庫	11.7		
合計	2,600.0			1,752.2		982.9	廊下等	302.7		
							649.2	2,998.9		

図表 14 参考事例「北見市民プール」



図出典:北見市民温水プール「施設内のご紹介」指定管理者(株)スコーレ

2-2 設備計画の検討

(1) AI カメラ監視システム

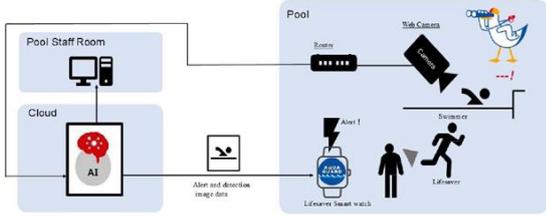
安心・安全な利用環境を確保するため、AI 搭載カメラによる監視システムの導入を検討します。また、導入により溺水事故の早期検知が可能となり、利用者の安全性向上を図ります。

図表 15 AI カメラ監視システムの製品事例

AQUAGUARD

システムの概要

アクアガードは、プールでの溺れ事故防止のために、プールサイドに設置されたWebカメラが利用状況をモニタリングし、AIがリアルタイムで画像解析を行い、①溺れが疑われる人の状態 (a1; 水面を叩く動作, a2; 頭の浮き沈み, a3; 梯子をのぼるような動作, a4; 手足を動かさず水中に没する), ②事故が起こりそうな人の行動・状態 (b1; 上下に飛びながら水中移動, b2; 泳いでいる人の交差, b3; 赤色の台の下に潜っている, fb1; フロートがひっくりかえる, fb2; フロートの下に潜っている) をAIが自動検知し、管理者、監視員のスマートウォッチに通知、事故防止、早期救助を実現するシステムである。



システムの有用性

本システムは、溺水者を検知するだけでなく、①溺れが疑われる利用者、②事故が起こりそうな人の行動・状態を検知し、アラートを発報することで溺れ事故の未然防止に有用であり、プールでのKeep Watchが強化され、より安全な利用環境を創出することができる、世界初のシステムである。

実証実験の結果、利用者の未然事故防止に有効であること、経験の無い監視員が監視を行う上で注意すべき状態を判断することができるなど、システムの有用性が確認された。本システムは、小中学校や公共プールだけでなく、テーマパーク、ホテルのプールなど様々な場所への適用が可能であり、2024年5月より、鹿児島県原田学園にて導入されている。



出典: 有限会社パシフィックネットワーク「溺水予防検知 AI カメラ AQUAGUARD」

2-3 構造計画の検討

国土交通省では、国家機関の建築物及びその附帯設備として必要な耐震性能を確保するため、「官庁施設の総合耐震・対津波計画基準」(平成25年3月29日 国土交通省大臣官房官庁営繕部)により、施設の性質に応じた建物の耐震安全性の目標を定めている。

プールは、多数の者が利用する施設として、「Ⅱ類」「B類」「乙類」と想定する。

図表 16 耐震安全性の目標

部位	分類	耐震安全性の目標
構造体	Ⅰ類	大地震動後、構造体の補修をすることなく建築物を使用できることを目標とし、人命の安全確保に加えて十分な機能確保が図られるものとする。(重要度係数1.5)
	Ⅱ類	大地震動後、構造体の大きな補修をすることなく建築物を使用できることを目標とし、人命の安全確保に加えて機能確保が図られるものとする。(重要度係数1.25)
	Ⅲ類	大地震動により構造体の部分的な損傷は生じるが、建築物全体の耐力の低下は著しくないことを目標とし、人命の安全確保が図られるものとする。(重要度係数1.0)
建築非構造部材	A類	大地震動後、災害応急対策活動等を円滑に行ううえ、又は危険物の管理のうえで支障となる建築非構造部材の損傷、移動等が発生しないことを目標とし、人命の安全確保に加えて十分な機能確保が図られるものとする。
	B類	大地震動により建築非構造部材の損傷、移動等が発生する場合でも、人命の安全確保と二次災害の防止が図られていることを目標とする。
建築設備	甲類	大地震動後の人命の安全確保及び二次災害の防止が図られているとともに、大きな補修をすることなく、必要な設備機能を相当期間継続できることを目標とする。
	乙類	大地震動後の人命の安全確保及び二次災害の防止が図られていることを目標とする。

資料：国土交通省「官庁施設の総合耐震・対津波計画基準」

図表 17 耐震安全性の分類

施設の用途	対象施設	耐震安全性の分類		
		構造体	建築非構造部材	建築設備
災害対策の指揮、情報伝達等のための施設	指定行政機関が入居する施設 指定地方行政ブロック機関が入居する施設 東京圏、名古屋圏、大阪圏及び地震防災対策強化地域にある指定行政機関が入居する施設	Ⅰ類	A類	甲類
	指定地方行政機関のうち、上記以外のもの及びこれに準ずる機能を有する機関が入居する施設	Ⅱ類		
被災者の救助、緊急医療活動等のための施設	病院関係機関のうち、災害時に拠点として機能すべき施設	Ⅰ類	A類	甲類
	上記以外の病院関係施設	Ⅱ類		
避難所として位置づけられた施設	学校、研修施設等のうち、地域防災計画で避難所として指定された施設	Ⅱ類	A類	乙類
危険物を貯蔵又は使用する施設	放射性物質又は病原菌類を取り扱う施設、これらに関する試験研究施設	Ⅰ類	A類	甲類
	石油類、高圧ガス、毒物等を取り扱う施設、これらに関する試験研究施設	Ⅱ類		
多数の者が利用する施設	学校施設、社会教育施設、社会福祉施設等	Ⅱ類	B類	乙類
その他	一般官公庁施設(上記以外のすべての官庁施設)	Ⅲ類	B類	乙類

資料：国土交通省「官庁施設の総合耐震・対津波計画基準」

2-4 石狩市 環境省 脱炭素先行地域事業

国は2050年カーボンニュートラルという目標に向けて、地域脱炭素の取組みを加速させるため、少なくとも100箇所の「脱炭素先行地域」をつくり、積極的に支援することで、「脱炭素ドミノ」を全国に広げることとしている。石狩市においては、令和4年4月26日に第1回脱炭素先行地域に選定され、「再エネの地産地活・脱炭素で地域をリデザイン」をテーマに、下記の2つのエリアを設定し、脱炭素化を進めている。

- エリア① 石狩湾新港地域内において、地域の再生可能エネルギーを供給する「REゾーン」を設定し、そのエリア内において脱炭素化と産業集積の両立を目指す。
- エリア② 石狩市役所及び周辺の公共施設群5施設（市役所、総合保健福祉センター、こども未来館あいぽーと、学校給食センター、石狩市民図書館）に再エネの最大限の導入を図るとともに、3施設間においてはマイクログリッドを構築し、脱炭素化とレジリエンス強化を図る。

現在の石狩市民プールは、上記脱炭素先行地域事業の対象施設ではないが、脱炭素先行地域の近隣エリア内であり、公共施設の脱炭素化という観点から、市内風力発電所で発電した電力を活用することで再エネ100%を実現しており、かつ新たなプールの建設候補地も同様に脱炭素先行地域のエリア内であることから、引き続き再生可能エネルギー等の利用による脱炭素化を検討する。



図表 18 脱炭素先行地域(エリア②)図

第2章 意見交換等の記録

令和7年9月29日(月)に行った、プール利用関係団体者を対象とした「市営プール整備に関する意見交換等」の意見結果一覧は以下のとおりである。当日はA班～D班に分かれてグループワークを実施した。

■A班

分類1	分類2	意見内容
立地・敷地	交通	りんくる横が近くて良い
		B&Gは行く道が五差路になっていて危ない。
	駐車場	駐車場の除排雪が大事。堆雪場所など駐車場を広くとれる必要がある。
		(駐車場除排雪に関連し)りんくる横のように駐車場が他施設と共用できるとよい。
プール機能	選手育成	石狩から水泳選手が育つようなプールであってほしい。
		こどもたちが選手を目指すためには公式大会ができる公認プールであるべき。
		設備と育成は別である。立派なプールがあれば選手が育つのではなく、育成は指導次第である。かつては今のプールでも選手が育った。
		プールが大きくても指導が追い付かないので50mプールは必要ない。
	メインプール	8レーンコースが欲しい
		8レーンのうち、一部レーンに台を入れて小さなこども用にすれば低年齢のスクールなど活用できる。
		大きいプールには相応の水量と費用が必要になる。
	こども用プール	こども用のサブプールを設置すれば練習に役立つ。大人もウォーミングアップなどで使える。
		サブプールはこども用の用途にすると良い。水深が浅いプールは最初の指導に役立つ。
	多目的プール・レーン	メインプールとは別個の多目的プールは要らない。維持管理に負担がかかる。
		シンプルがベスト。曲線プールは見栄えはいいが使い勝手が悪い。
		障がい者専用レーンは可能だろうか。(歩行用レーンを使えば可能と他参加者からの反応あり)

分類1	分類2	意見内容
プール以外の機能	多機能化	人口が減少するなか、施設の利便性を高め人を集める必要がある。
	運動	プールに+αの機能を。例えばスポーツジムなど。
		トレーニングルームを設置
	交流	水泳以外でも楽しめる場所に
		レストランがなくなって残念。
カフェなどがあつたらいいなあ。 コミュニケーションのできる場所に。		
防災	防災拠点としての設備と機能性が欲しい	
運用・管理	省エネ	省エネあるいは熱利用の可能性を検討すべき。
	管理	水温管理を見やすくしてほしい
		現市民プール2Fの多目的ホールは空調が良くない。空調を良くしてほしい
	運用	日曜の休館日はなるべく少なくしてほしい。家族で参加できるように。
利用者にとっては良いが、日曜日に開館するのは働き手の負担になる。		
利用や予約などの情報を常に開示してほしい 運用方法を具体的に検討して持続可能性を重視してほしい。		

■B班

分類1	分類2	意見内容
立地・敷地	アクセス	高齢者に配慮した場所に建設してほしい
		現在の候補地 5 か所はまちづくりの観点から選ばれたのか？
	駐車場	駐車場を今より広くしてほしい
計画策定		基本計画はいつできますか？ 構想はいいが、基本的な考え方を絞る必要があるのではないか
整備方針	こどもが楽しめる	こどもたちが安心して通える環境づくり。プールや自由なスペース
		市民プールをいつも見ているが、こどもでにぎわっている様子が素晴らしいと思う
		幼児用の浅いプール。滑り台など楽しいものをつける
		滑り台をつけるなら、中途半端なものではなく楽しめるものがいい
		プールだけでなく、こどもたちが遊べるスペース
	安心できる	幼児も使いやすいトイレ
		プールに出入りするためのスロープ
今の2階の多目的ルームのような広いスペースを、着替え用に1階に設けてほしい		

分類1	分類2	意見内容
プールの機能	メインプール	公認大会が行えるプールが良い。公式記録が測定できるプール
		8レーンは必要
		プールの数を今より多くしてほしい
	設備	プールサイドの物入れを今より大きくしてほしい
		多目的に使えるロッカールームを多くしてほしい
	観覧スペース	プール全体を横から(できれば上から)みられるのが良い
		見学スペース、駐車場を今より広くしてほしい
		観覧、見学スペースの確保 プールサイドにも見学ができるスペースがほしい
	採暖室	採暖室を今より暖かくしてほしい
		採暖室をサウナに
採暖室で体が乾くように		
プール経営	集客・運営	トレーニングルームの作り方は大事(来訪目的となるような器具等が必要)
		サウナを設け、サウナ利用者を取り込んではどうか
	利用料金	市民は低価格で利用できるほうが良い
		費用を今より安くしてほしい
	指導員	素晴らしい施設づくりができたとしても、専門家やプロの人材を配置できるのか
		プール経験者は貴重な人材
施設全体		長く利用できる施設にしてほしい

■C班

分類1	分類2	意見内容
基本となる考え方	利用しやすく	2か所あったプールが1か所になるので大きくしてほしい
		利用回数が減らないように
		教室で利用する際に調整が大変になるのではないかと
		利用者の年齢層によって必要なプールの大きさが変わる
		こどもが使いやすい施設に
		夏休みはこどもの利用優先で
		観覧している親子も多いので、観覧席も必要
	利便性	交通結節点に建ててほしい
		駐車場を広く取ってほしい
		自転車で通える場所にあると便利
機能	必要な機能	ウォーキングレーン、水泳レーン、幼児用の浅いレーンの3つは必要
		ウォーキングできるレーンを整備してほしい
		プールの拡大、多目的化
		トイレを男女、多目的に分けずに誰でも使用できるようにする

分類1	分類2	意見内容
機能	必要な機能	男女の利用者数(時間帯)によって性別をシフトできるトイレ(どこかの道の駅での導入事例あり)
		更衣室も男女の利用者数によって移動できる仕切りがあるとよい
		幼児用の着替えスペース(男女分ける、靴置きも設ける)
	楽しめる機能	流れるプール
		幼児用プールには滑り台付きだと楽しい
		プール後に温まれるジャグジー
	人手不足	受付等で IT ツールを活用する。安全面でも活用できるかも？
しつらえの工夫	木を活用	木を多く使ってほしい
		厚田学園(木がふんだんに使われていて落ち着く)のような雰囲気
		木が多いと温かみが増す
		プール周りの景観を、樹木などを取り入れて良くする
にぎわいのアイデア	インクルーシブ	いろんな立場の人と関われる施設に
		インクルーシブで楽しく繋がる
		利用者が固定されないように
	アピール	市民が多く集まる楽しい場所であってほしい。大会の開催
		健康のためにプール利用を推進(高齢者やメタボの人に向けて)
	プラスαの機能	隣に体育館を設ける
		スタバを誘致(スタバが目的で来てくれる人も増える?)
		民間企業の力も借りる
		六ヶ所村の事例(プール、野球場、体育館が整備されている。オリンピックも開催できる施設)

■D班

分類1	分類2	意見内容
敷地	旧公民館跡地	現在の市民プールは駐車場や前の道路が狭い。また、歩いて行けるところや図書館等のついで利用も考えると、りんくるや市役所周辺の中心部が良いと考える。その中で、りんくる横の駐車場は残した方が良いと考えることから旧公民館跡地が良いのではないかと。
	市役所・りんくる周辺	市役所・図書館が周囲にあるのは便利
	B&G	駐車場が広くとれる。
		近くにアリーナがあり、運営面では人件費の削減にもなる。一方で、交通アクセスが悪い
		スポーツ施設エリアにすることができる
その他	駐車場が広くとれる場所がよい。現在の市民プールはバス一般利用が混みあって危ないことからバス専用エリアもつくれたらよい。	
使い方	健康づくりができる施設	プールのみならず、全体として健康づくりの場とするのが良い。
		ジム
		温浴施設
	こどもも気軽に行けるプール	滑り台があって遊べる施設が良い
		こども達専用の浅いプールがあると良い
		今の市民プールはスクール利用が多く、気軽に行きづらい。家族で気軽に行けるプールが良い。
		B&Gは無料でこどもが行きやすい。新プールの料金体系もある程度それらを考慮した形になるのか？
運用・運営	プールの運用	スクール利用中心の市民プールと遊ぶ利用中心のB&Gの統合後はどのようにうまく使い方を合わせるのか？
		可動床にして様々な用途に対応できるように
		スイミングレーンとウォーキングレーン、教室利用を分ける
	運営	休館日を少なくしてほしい
		備品の貸し出しを行ってほしい。帽子を忘れてよく買っている
	整備方法	市営プールを整備することは賛成。統合するのが良い、1つにしてお金をかけてしっかりとした施設を整備する
	設備	ユニバーサル・インクルーシブ
介助を考えて、複数人が入れる広めの多目的トイレが良い		
こどもの男女別で着替えられるよう多目的更衣室の仕切りを多めにする。		
シャワー数も多いほうが良い。ユニバーサルタイプを作らない場合は、利用者と支援員専用のスペースを確保		
高齢の方の移動も考えてエレベーターの設置		
	寒さ対策	今のプールは寒く、採暖室を広くとる。
		ホールなどほかの場所を通ると寒いことから更衣室とプールをすぐに行き来できるようにする。
	その他	プール床の足ざわりが悪く、こどもたちが嫌がる